

新技術・情報名	グリーンアスパラガスの被覆栽培技術		
実施場所	三重県農業技術センター	分類	①

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

暖地グリーンアスパラガス半促成栽培における早期安定多収技術としては、密植、雨よけ、早期の株づくりを行い、5～6年の短期更新で生産安定が図れる。

(1) 栽植密度は、2800株、5600株が多収を示したが、その差は少なかったことから、後年度の病害発生程度を考慮して、10a当り3000株程度がよい。

(2) 定植後の被覆開始年次は、病害発生軽減、株養分充実のための定植翌年から行い、被覆は収穫後雨よけとして、生理的茎葉黄化期まで行なうのが良い。

(3) 品種は、ナイアガラが早期収量多く、また、3年間の累積収量も慣行品種メリーフシントン500Wより優り有望と思われる。

2) 技術・情報の適用効果

(1) 密植(3000株/10a)することで、早期に成園並の収量が確保でき、収益性を高めることができる。

(2) 暖地では、定植翌年から収穫を開始することができ、収益性の向上につなげられる。

(3) 密植でも、雨よけ栽培により病害が軽減でき、生産安定が図れる。

3) 適用範囲

グリーンアスパラガス栽培地帯(一般平坦地)

4) 普及上の留意点

(1) 雨よけ栽培を行う場合でも薬剤防除は必要でない。

(2) 定植翌年から収穫を行う場合、定植時期はなるべく早めて1年目の株づくりを十分行う。

2. 具体的データ

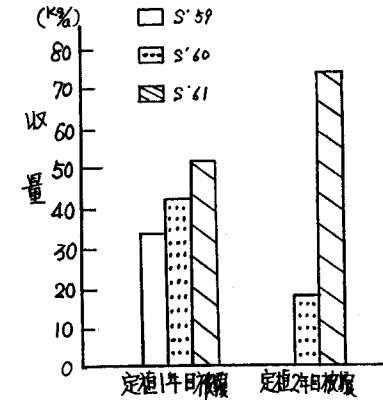
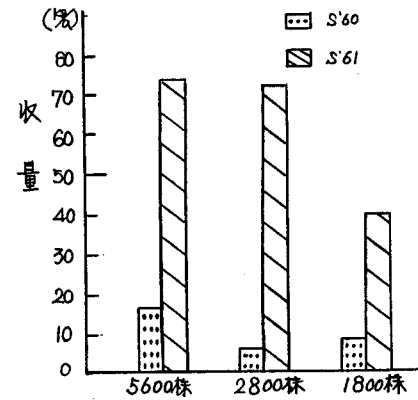


図1. 栽植密度と収量

図2. 定植後被覆年次と収量

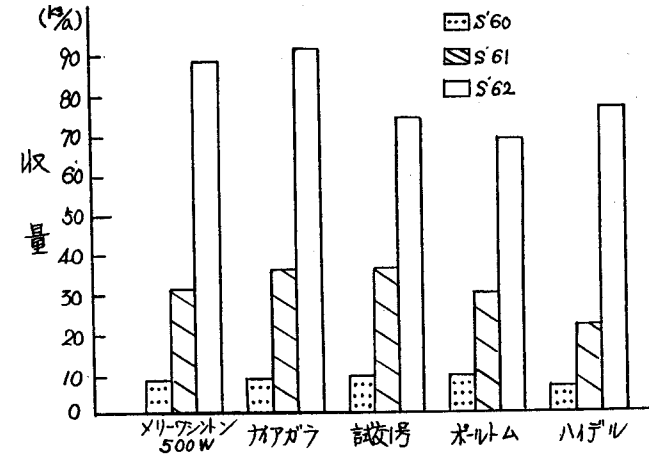


図3. 品種と収量

3. その他特記事項

グリーンアスパラガス被覆栽培技術の確立 昭和58年～61年
 グリーンアスパラガス暖地作型の開発 昭和62年